

奈良女大政 〇梁瀬度子 磯田憲生 久保博子 植松奈美、 兵庫教育大 菊沢康子
 岩手大教育 長沢由喜子、 大阪青山短大 宮沢モリエ、 京都教育大 榑原典子
 広島大教育 岩重博文、 新潟大教育 五十嵐由利子、 江南女短大 水野由美

目的：高齢者の温熱適応能力からみた居住環境づくりについて検討する目的で、気候風土的特色をもつ地域に居住する高齢者を対象に、身体状況や生活行動様式、着衣状況、室内環境調整などの実態についてアンケート調査を実施し、加齢による共通的特性と環境要因からくる特異性について分析を加えた。

方法：調査対象は北海道から九州に至る10地域で各地に居住する60才以上の男女計約3200名。昭和62年8月～63年2月までの酷暑・酷寒期を選び、原則として同一対象者に記入を依頼。尚、比較対象として同地域の大学生男女約1100名についても同調査を実施した。

結果：本報では高齢対象者の属性および加齢による特徴について報告する。平均年齢は男性70.4才、女性69.2才、約半数が子供又は子供の家族と同居し、夫婦暮らしは男性40%に対し女性は24%と少なく、逆に女性の1人暮らしが17%（男性3%）と多い。身長、体重および肥満度を示すケトレ指数（体重/身長²）は加齢とともに減少傾向が認められる。日常生活において加齢による影響が顕著に認められる項目には、①夜間のトイレ回数、②就寝時刻、③睡眠時間、④昼寝の有無、⑤外出頻度、⑥家事作業（男性のみ）、⑦昼間と夜間の居室、⑧寝床暖房器具の使用開始時期などがある。①③④は加齢とともに増加、⑤⑥は減少、②⑧はその時期が早まる。また、居室と寝室が同室となる割合も増加し、住居内での行動範囲が狭くなる。男女差は睡眠に関わる項目、暑さに対する抵抗力、冬期の夜間トイレ回数、外出頻度、カイロの使用に認められ、女性の方が全般的に暑さに対してやや弱い。寒さに対しては逆の傾向がある。季節差や着衣量などについての比較も行う。